

ケビン・メア米国務省日本部長の発言に対する意見書

ケビン・メア日本部長（前在沖米国総領事）が昨年12月、米大学生らに国務省内で行った講義で、「沖縄の人々は、日本政府を巧みに操り、ゆすりをかける名人である。」などと述べていたとのことである。

普天間飛行場についても、「沖縄の人たちは普天間飛行場が世界で最も危険な飛行場だと主張するが、彼らはそれが本当のことではないと知っている。」「福岡空港や大阪伊丹空港だって同じように危険だ。」とも報じられている。

さらに、「東京は沖縄の県知事に伝える必要があるのだ。お金が欲しければ、サインしなさい」「沖縄の人たちはゴーヤーを栽培しているが、他県の栽培量の方が多い。沖縄の人は怠惰すぎて栽培できないからだ。」「日本に行ったら本音と建前に気を付けるべきだ。本音と建て前とは、言葉と本当の考えが違うということだ。」と述べるなど、沖縄に対する偏見に満ちた差別的な発言には強い怒りを抑えきれない。

ケビン・メア米国務省日本部長は、在沖米国総領事を務めてきた2006年から平成2009年の間にも、沖縄への差別的言動を繰り返してきた経緯がある。

北谷町では、基地から派生する事件・事故への対応、日常的な騒音被害、度重なる外来機の飛来、深夜早朝の即応訓練や戦闘機の離着陸に戦後65年以上苦しめられてきた。

このような中、日本と沖縄を軽視した発言は、不信感が増すだけで到底許せるものではない。

よって、北谷町議会は、メア米国務省日本部長の偏見に満ちた侮辱的で、沖縄を植民地扱いするような発言に対し、強く抗議するとともに、日本政府は、米国政府に毅然と対応するよう強く要請する。

記

- 1 偏見に満ちた差別的な発言を撤回し、謝罪させること。
- 2 米政府に対し、ケビン・メア米国務省日本部長の更迭を求めること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成23年3月9日

沖縄県中頭郡北谷町議会

あて先

内閣総理大臣 外務大臣 防衛大臣 外務省特命全権大使（沖縄担当）